

ellipse

平成21年

1月

[エリプス]

TOPICS

大好評！男女平等参画セミナー

「源氏物語 —女性と結婚—」

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津知寿 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

REPORT

助成金事業 金融教育授業
COSMOS 交流会

INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報
第139回芥川賞受賞 楊逸氏講演会
山崎美和恵著『湯浅年子の肖像』
お茶の水ブックレット8 発行
尾崎翠シンポジウム
「尾崎翠の新世紀-第七官界への招待-」
事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人

お茶の水学術事業会

大好評!男女平等参画セミナー

「源氏物語 —女性と結婚—」

11月8日(土)「平安時代の婚姻と和歌」 講師:お茶の水女子大学教授 平野 由紀子氏
 11月15日(土)「紫の上の生涯」 講師:中京大学非常勤講師 田中 恭子氏
 ◆時間:午後1時30分~午後3時30分 ◆場所:文京シビックセンター内会議室
 ◆参加人数:第1回-42名 第2回-43名

2008年度第2回目となる文京区男女協働・特命担当課とお茶の水学術事業会の共催セミナーは、『源氏物語』をとりあげ、その魅力に迫りました。

谷萩礼子氏(桜蔭学園講師)による『源氏物語』をテーマとした草木染めの布が飾られ、華やいだ雰囲気漂う会場で、第1回目は、一緒に和歌を音読したり、谷萩氏から草木染めのお話を伺ったりしながら、物語の背景となる平安女性の生活について学びました。

それを受けて第2回目の田中恭子氏は、紫の上にスポットをあてました。光源氏の永遠の恋人である藤壺の姪にあたり、その形代として源氏にひきとられた紫の上は、源氏の理想通りの女性に成熟しました。しかし、源氏が藤壺のもう一人の姪である女三宮を降嫁させた後、夫がつかの間の寄辺となりえないことを知って苦悩します。養女が生んだ孫宮の養育を慰めとした紫の上が、最後に秘かに託した遺言は、含蓄に富み、千年の時をこえて、私達に多くのことを訴えかけてくると解説してくださいました。

受講生へのアンケートでは、「分かりやすく有意義な内容で楽しく勉強できた」、「原文を読んでみたいと思った」という声が多数でした。

それでは、当会の理事長でもある平野由紀子氏の講義の一部をご紹介します。

源氏千年紀とは

今年は源氏物語千年紀ということで、様々な催しが行われていますが、これは『紫式部日記』の記事に由来します。藤原道長の娘彰子(一条帝の中宮)が産んだ男皇子(後の後一条帝)の生後50日目のお祝いの宴席(1008年11月1日)で、御簾のかげにいる紫式部に、藤原公任が「このあたりに若紫さんはいますか。」と呼びかけたと書いてあるのです。

『源氏物語』は、はじめから長編として54帖が一括して発表されたわけではありません。短編として帖ごとに写されて読まれていたのです。『紫式部日記』のエピソードからは、当時「若紫」が皆に人気だったということが分かります。

2008年は、それからちょうど千年目にあたるということで、お祝いしよう、これを機会に古典を皆様の親しいものにしていただくというのが、源氏物語千年紀です。

私が教えているお茶の水女子大学には、タイ、イタリア、中



▲平野 由紀子氏
2008年3月に、小町・伊勢・紫式部・和泉式部・能因などの論考を含む『平安和歌研究』(風間書房)を上梓。



▲田中 恭子氏
1993年よりカルチャーセンターで『源氏物語』を担当。注釈書に『赤染衛門集全釈』(共著、風間書房)、論文に「此岸のはての紫の上」(『国語と国文学』2007年9月)など。

国、韓国からやってきて、『蜻蛉日記』、『枕草子』、『源氏物語』等を研究する留学生達もいますが、彼女達の国には、千年も前の女性達が書き残した文学作品はないのだそうです。

平安時代の和歌の役割

私は平安の和歌を勉強しておりますが、『源氏物語』が執筆された頃には、『古今和歌集』、『後撰和歌集』、『拾遺和歌集』という勅撰和歌集のほかに、『人麻呂集』、『小町集』などといった私家集も多くありました。

今の私たちから見ると不思議なことなのですが、平安時代の人々は和歌で会話をしました。日常の色々な場面で、親子、兄弟、夫婦、恋人、そして友達同士が、手紙として和歌のやりとりをしています。これを贈答歌といいます。

人につかはしける 源ひとしの朝臣
あさぢふの小野の篠原しのぶれどあまりてなどか人の恋しき
(『後撰和歌集』・恋一)

「しのぶ」というのは、じっと我慢する、顔に表れないようにしていることです。堪えているけれども恋しくてたまらない、堪えきれずにもう溢れてしまうというのが、「あまりて」。どうしてこんなに恋しくてならないのだろうということです。

この歌には、「人につかはしける」という詞書ことばがきがついていますから、ある特定の人物に宛てた手紙であることが分かります。

ここで、当時の恋愛の進行について少し説明いたします。

男性はまず、意中の女性に恋の歌を送ります。「忍ぶ恋がもう堪えきれなくなった今うちあける」、「会いたいけれど会えない、そんな私の思いをあなたは知らないでしょう」、「恋をしていると息をしているのかも分からない。食べ物も喉を通らない。もう死んでしまいそうです。どうか私の手紙に返事をください」というような内容です。それを薄様うすようという美しい薄い色のついた紙に書き付けて、季節の花一春ならば梅とか桜、夏ならばアヤメ、藤、秋ならば紅葉一を折り取った枝に結んで、使いの者に持って行かせます。

受け取った女性のほうは、男性の熱意、人柄、将来性などを考えて、その人を受け入れたいと思ったら、歌を返します。でも気が進まないときは返しません。あまりに無下に断わつてはといて、乳母や女房が代わりに作ることもありました。

中には、男性が何回歌を贈ってもまったく返歌がもらえず、せめて文を「見つ(見ました)」という返事だけでも欲しいと訴えたところ、女性は男性の文の「見つ」というところだけをちぎって返したという笑い話のような例もあります。

たとえ冷たい内容であっても、女性から返歌をもらえれば、二人の関係は大分進展したことになります。当時の恋愛において、和歌はとても大きな役割を果たしていたのです。

平安時代のお姫様の生活

漫画『あさきゆめみし』や映画などを通じて、平安時代のお姫様の生活というのは、ポピュラーなものになっていますが、一つ現代の私達が見落としがちなのがあります。それは、当時の女性は歌や琴だけをしていたわけではなく、衣服の調達ということがとても大事な役割だったということです。

今の時代は、ユニクロの時代といえますが、私たちは生産から切り離されていて、大量生産された服を買うだけの生活です。簡単に手に入る代わりに、皆が同じものを着ています。

けれども、平安時代には、当たり前ですが、今のような工場はありません。『夕鶴』という有名な劇にも機織はたおりが出てきますが、平安時代はもちろん、近代のある時期まではずっと女の人が機を織っていました。絹糸をよって(木綿は中世以降)、草木の汁などで染めて、織って反物にして、それを今度は、裁って縫ぬいいます。これは家の女主人が女房、女童めわらわと一緒に全部邸でやりました。ですから、織るときの模様にしても、糸や布を染める色にしても、現代



▲ 草木染めの布
(作：谷萩礼子氏)

のように同じものが沢山ということはありませんでした。

『源氏物語』の紫の上は、染物がとても上手なのですが、これは当時、女性として大変優れた能力を持っているということになりました。というのは、男性が宮廷に出仕する際、着ていく衣服はとても大切だったのですが、それは妻の家で調達するものだったからです。今のようにお店で買えないのですから、男の人は、きちんと衣服を整えてくれるような女性と結婚することを望みました。



平安時代の婚姻の形式

平安時代は、婚姻の形も今と違っていました。

アメリカの日本学者ウィリアム・マッカロウ氏は、新しい男女のカップルが結婚した後どこに住むかということ基準として、人間社会の婚姻を次の4つに分類しました。

- 1 夫方居住(夫と妻が夫の家の近くに住居を構えるか、ないしは夫の親の家に住む)
- 2 妻方居住(夫と妻が妻の家に住む)
- 3 新処居住(夫婦が彼ら自身の独立した家屋に居住する)
- 4 訪婚(夫が妻を訪問し、生涯同居しない)

そして、平安時代の婚姻には1の「夫方居住」がないということ論証しました(『平安時代の婚姻制度』1967年)。

平安時代には、結婚した男性は自分の両親と一緒に住まなかったのです。女性は自分の邸にいて、夫を迎えます。夫が用意した邸に住む場合もありましたが、そこに夫の両親が居るということはありませんでした。

そして、男性が同居の妻のところから別の、自分自身の邸に住む女性達のもとに通うという多妻婚でした。同居の妻が、複数いる妻の中で優位に立ってはいいるのですが、法律的に正妻だということではありません。男の人の気が変われば、同居の妻が別の人になることもありました。

『後撰和歌集』の贈答にも、しばらく通って来なかった男が、ひょっこり来たというようなやりとりが残っております。今のように届けを出すわけではなく、通ってきている間は夫だけれど、通ってこなければ途切れるという関係でした。結婚の終焉というものはつきりせず、その不安定さゆえに苦しむ女性も多かったのです。

『源氏物語』には、上流階級の紫の上、葵の上、六条の御息所、中流階級の明石の御方、空蝉、夕顔など、光源氏をめぐって多くの女性達が登場しますが、その背景にはこのような婚姻の形態があったのです。

お茶大95年卒 楊逸さん

第139回 芥川賞受賞おめでとうございます

楊逸さんは中国ハルビン市出身、1987年に留学生として来日。アルバイトをしながら日本語学校に通い猛勉強の後、本学文教育学部に入學、地理学を専攻されました。

卒業後は在日中国人向けの新聞社勤務、中国語教師を経て2007年「ワンちゃん」で第105回文學界新人賞を受賞し、小説家としてデビューされました。

2008年には、「ワンちゃん」が第138回芥川賞候補にもなり話題になったのをご記憶の方も多と思います。そして同年ついに第139回芥川賞を「時が滲む朝」で受賞されました。

お茶大卒業生の受賞は1996年の川上弘美さん(受賞作「蛇を踏む」)その他代表作は「センセイの鞆」「真鶴」などに2人目の快挙です。

なんとといっても話題になったのは中国籍の作家としても、日本語以外の言語を母語とする作家としても芥川賞史上初めての受賞者であることです。大変な努力は想像もできません。

母校として受賞をお祝いする記念講演会が1月31日(土)に徽音堂で開催されます。

司会をされる内田伸子先生(本学副学長、発達心理学)より「徽音堂がいっぱいになりますように皆さんにお知らせしましょう。」とポスターの掲載許可をいただきました。どうぞ皆様ふるってご参加ください。改装後の徽音堂をまだご覧になっていない方もぜひこの機会にいかがですか。1月10日発売の「金魚生活」の即売サイン会も開催します。

お茶の水女子大学公開講演会

2009年1月31日(土)

時間 13:30~16:10

場所 お茶の水女子大学 徽音堂

主催 お茶の水女子大学

挨拶 郷 通子 お茶の水女子大学長
司会 内田 伸子 お茶の水女子大学副学長

◆ 13:40~15:10 講演 (休憩)
◆ 15:20~15:50 ヤンさんとの対話の会
◆ 15:50~16:10 サイン会

お茶大で学び 新聞記者から 文筆職人への道

芥川賞作家 楊逸さん 氏講演会

楊逸さん

中国・ハルビン市出身。中国籍。1987年、留学生として来日。お茶の水女子大学卒業。卒業後在日中国人向けの新聞社を経て、中国語教師として働く。2007年「ワンちゃん」で第105回文學界新人賞を受賞。

問合せ先:お茶の水女子大学 産学連携チーム
TEL: 03-5978-5112
E-mail: k-kouza@cc.ocha.ac.jp ◆参加費無料

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

(資料提供:お茶の水女子大学)

「雅 Grace」のお取り扱いが始まりました。

本紙前号で産学連携の成果、室伏きみ子教授の発見物質cPA(環状ホスファチジン酸)配合の化粧品の製品化のご紹介をいたしましたところ多くの方からお問い合わせをいただきました。

今まではインターネットのみの販売でしたが、お茶大関係の方に少しでもお求めやすくなるよう発売元SANSHO(株)の協力により特別価格で本会でお取り扱いができるようになりました。2008年12月に某雑誌のコスメ特集にも紹介されファンが増えてきています。化粧水、美容液、乳液のセットでも単品でもお送りできますので、8ページの本会事務局までお問い合わせください。



商品名	定価
① グレイス化粧水 (150ml)	6,300円(税込)
② グレイス美容液 (30ml)	9,450円(税込)
③ グレイス乳液 (100ml)	7,350円(税込)

■ 助成金事業のご報告

2008年8月22日(日)に開催されました、お茶の水女子大学附属学校部主催「第6回 夏の一日研修会 分科会B:金融教育～お金がめぐる社会を追跡しよう」における講演会へ当会が助成をいたしました。

本助成事業の意義並びに講演会の講師の紹介を当会理事村重嘉文氏(附属中学校教育後援会:鏡水会会長)より、また、当日の報告をお茶の水女子大学附属中学校社会科室佐々木善子先生より頂きましたので、ここにご報告いたします。



本助成事業の意義並びに講師のご紹介 ～ お茶の水学術事業会理事 村重嘉文氏

金融教育プログラムは、金融庁、文部科学省、財務省、経済産業省、日本銀行など多くの国の機関が現在教育現場への普及に腐心しているところで、教育研究プログラム開発指定校のお茶大附属中学校としても、この研修会において指導的立場で開催し、情報発信できたことは大変意義のあることです。

講演会の講師の中井美恵子氏は、都市銀行勤務時代金融界で初の女性証券アナリストですが、現在は中小企業診断士協会唯一の女性理事、埼玉県創業・ベンチャー支援センターアドバ

イザー他の役職を持ち、ご自身で研究所の主宰として、金融関係各方面で活躍しており、講演会も数多く行っています。病院債に関する権威で、著書もお出しになり、厚生労働省と東南アジア諸国女性の日本での介護士導入育成にも関わったり、AEDインストラクターをしたり、大変多才な女性です。

附属学校部主催のこのような有意義な授業における講演会開催に、当会が少しでもお役に立てますことを幸いに存じます。

金融教育授業のご報告 ～ お茶の水女子大学附属中学校社会科室 佐々木善子先生

毎年夏に、お茶の水女子大学附属学校部の主催で「夏の一日研修会」が開催されていますが、今年度の研修会で、附属学校の社会科が分科会Bを担当し、金融教育に関する授業実践と金融の専門家を講師に招いての講演会を行いました。

まず、参加者に生徒役になってもらった上で、金融教育(お金に焦点を当てて)に関する模擬授業を行いました。

内容は、「金融」という言葉の意味から始まり、世界の様々な紙幣を実際に見せながら、「なぜお金が価値を持つのか」を考えてもらいました。つぎに、簡単なオークションの形を取り入れたアクティビティを通して、「お金はたくさんあるといいのか」、「お金の価値はどのように決まるのか」を考えました。最後は、3万円(お年玉)の使い方を6人の小グループで考えて、なぜそのような使い方をしたのか、理由をつけながら発表しました。「自分のお金をどのように使ったらいいか」という視点で、



次の講演の内容につながる形で模擬授業を終わりにしました。

続いて、中井生活経済研究所所長の中井美恵子氏を講師に招いて講演会を行いました。

郵政民営化やサブプライムローンなどの現代社会の問題について、非常にわかりやすく、かつ一般的なマスメディアの報道では説明されていない視点や内容をふまえて説明があり、さらに社会的責任投資などについても解説を含めながら、「自分のお金を意識して使う」とはどういうことかに関して、非常に示唆的な内容でした。

最後は、全体での質疑応答や情報交換の時間を設けました。参加者から、自分自身の実践や日頃困っていることなどについての発言がでると、金融広報中央委員会の岡崎竜子氏が即座に的確な実践例や様々な情報を出してくださるなど、とても充実した内容となりました。



※当会では、様々な教育的・社会的意義のある事業に対し助成金支給事業を展開しております。申請に一定の条件がありますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。



お茶の水女子大学 イベント情報

2009年2月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2009年2月14日(土) 10:00～12:00	幼児教育未来研究会2月例会 テーマ:遊びの中の学び(協働的な学び) ◆事例提供:金沢大学教育学部附属幼稚園 ◆助言:無藤 隆先生(白梅学園大学教授)	無料	【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】 子どもセンターのホームページからリンクできます。 http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/
2009年5月30日(土)	第3回お茶の水女子大学ホームカミングデイ 化学科・桜化会 OUCA 共同企画講演会 ◆講師:平井崇子氏(昭和33年化学科卒、 「かがくくらぶコスモ」代表)他		【会場】お茶の水女子大学内 【お問合せ・お申込み】 桜化会 OUCA 事務局 E-mail:ouca@cc.ocha.ac.jp http://www.chem.ocha.ac.jp/~ouca/ 〒112-8610 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学理学部化学教室内 TEL/FAX 03-5978-5290
2009年3月2日(月) 13:00～20:00	化学・生物総合管理の再教育講座 シンポジウム—成果報告と将来展望— 2004～2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」について、5年間の経過報告をおこなう。あわせてこの再教育講座を発展的に継続する「知の市場」の将来展望と、2009年度に「知の市場」として講座を開講する14の機関の報告をおこなう。 (知の市場HP: http://www.chinoichiba.org/ 参照)	無料	【主催】お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター 【会場】学術総合センター 一ツ橋記念講堂 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 東京メトロ東西線「竹橋駅」徒歩4分、東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線「神保町駅」徒歩3分 【お問合せ・お申込み】 黒岡 緑 E-mail: koukai-c@cc.ocha.ac.jp お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 TEL/FAX 03-5978-5096
2009年4月～8月 (前期)	公開講座「知の市場」 5年間の「化学・生物総合管理の再教育講座」を発展的に継承し、新しく展開する公開講座で、2009年度に全国14拠点で65科目を開講するが、お茶の水女子大学では前期2科目・後期2科目を実施する。 (知の市場HP: http://www.chinoichiba.org/ 参照)	無料	【主催】お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター 【会場】お茶の水女子大学 【お問合せ・お申込み】 知の市場お茶大事務局 E-mail: ocha-jim@chinoichiba.org お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室) 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 TEL 03-5978-5018、FAX 03-5978-5096

図書館の人気スポット! キャリアカフェ

2007年12月、お茶大附属図書館の1階に「学生が主体となった知的コミュニケーション空間」としてキャリアカフェがオープンしました。キャリアカフェは、図書館と現代GPの学内コラボレートで運営されています。

カフェ内には、「Career Cafe Book」として、「夢・キャリア・ライフワーク」「美しい日本語」「心を癒す」をテーマにした本が置かれ、社会人となったOGを招いての講義や座談会なども行われています。毎週月曜日の13:00～17:00には、キャリアレポートアドバイザーが悩める学生達の相談にのってくれます。

オープンから1年。就職活動をはじめ将来の自分像や未来について、コーヒー片手に自由に話せる場所として人気を集め、図書館の入館者数も増えています。お茶大の学生の半数を超える1700名が入館した日もあったそうです。



(写真提供: 現代GP (科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』))

COSMOS 交流会 取材報告

Career Opportunity Support Model from Ochanomizu Scientists

2008年9月24日(水)、第5回COSMOS交流会が開催されました。本学は文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成プログラム」の採択を平成18年度～20年度に受けています。課題名は「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」です。COSMOS (Career Opportunity Support Model from Ochanomizu Scientists) のニックネームで活動をしています。この交流会は、COSMOSの活動の一環として、本学教員や卒業生などの女性研究者(ロールモデル)情報を収集・発信することを目的としたものです。

前半は、理学部会議室で藤枝修子特任教授(名誉教授 化学)の司会により、郷学長のご挨拶の後、『女性名誉教授大いに語るー女性だから生まれた発想・女性だから実現できた研究ー』というテーマで、松田千鶴子先生(数学)、澤島侑子先生(数学)、田中翠先生(物理)、伊藤厚子先生(物理・現当会副理事長)、渡邊ヒサ子先生(数学)のお話を聞かせていただきました。「お茶大に入らなかったら今の私はない」「女子大は、女性の人材を育てるにはよい所」など、先生方のお話からは当時から女性の人材育成に理解のあった大学の様子を伺うことができました。



た。「何でも自分でやるのが当たり前」という自立心が育つ環境と理解のある先生方の存在が、貴重であったようです。テーマとして取り上げられた「女性だから」という研究や発想での男女差は、理系の分野では感じられないというご意見の先生が多かったようです。これも女子大という環境ならではのことかもしれません。

まだ女性研究者の少なかった時代に、結婚・子育ての傍らで研究を続けて来られた経験談などのお話は、普段では聞くことのできないとても興味深いものでした。

後半は、会場をラウンジに移し懇談会形式で行われました。参加した卒業生や現役研究者と共に、世代を越えた有意義な交流を図ることができたようです。

「お茶大が将来も女子大として輝き続けるには、『女性でないとできない』部分を外に向かってアピールしていかなくてはならない」という藤枝先生のお言葉が、お茶大のこれからの方向を示しているようで、このプロジェクトの目指すものであることを感じました。(文責 お茶の水学術事業会)

山崎美和恵著『湯浅年子の肖像』 出版遅延のお詫び

エリプス15号でお知らせしました出版予定が大幅に遅れております事をお詫び申し上げます。契約先出版社の倒産により一旦頓挫いたしました。仕切り直しまして新たな出版社による刊行が決まり、3月初旬に発行の見通しでございます。予約のご注文を頂きました方々はじめ皆さまにはご心配をおかけいたしますが、何とぞ事情ご賢察下さいますよう、お願いを申し上げます。

2008年の春は、国立科学博物館での「なでしこたちの挑戦」(湯浅年子ほか6人の女性科学者の研究人生を展示)が話題になりましたが、6人の「なでしこたち」の肖像(レリーフ)が、国立科学博物館(地球館M2F)の常設展示「科学技術の偉人たち～日本の科学者技術者～」(既設9人)に「偉人

として加えられることが決まりました。現在レリーフを製作中とのことです。

秋には、日本人物理学者のノーベル賞受賞が話題を呼びましたが、同じ頃、日仏修好150年を記念した「湯浅年子メモリアル」が、フランス国立科学研究センターで開催されました。残念ながら日本からの出席者はありませんでしたが、当日はエレーヌ＝ランジュバン・ジョリオ氏による湯浅年子の思い出などの講演があったとのこと。

2009年は「湯浅年子生誕100年」にあたりますので、日本に於いても関係者の間で記念行事の準備が進められているようです。これらの様子は、可能な限り新著に取り込まれることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

お茶の水ブックレット 第8号

『明治 大正 昭和 に生きた女性作家たち』

—木村曙 樋口一葉 金子みすゞ 尾崎翠 野溝七生子 円地文子
 2008年11月初旬にお茶の水ブックレット第8号を出版しました。
 お茶の水女子大学で行われている最先端の研究成果を、広く一般の方々に向けわかりやすいかたちで発信するというコンセプトの下に制作した本書は、「お茶大 日文」のパワーを実感できる1冊となりました。既にクチコミで多くの方々に買い上げいただけて好評です。是非、ご一読の上、ご知友にご紹介ください。ご感想などお寄せいただけましたら幸いです。

◆執筆者：菅 聡子・藤本 恵・武内佳代・川原塚瑞穂・倉田容子

—既刊ブックレット— 【1冊 500円/送料は2冊まで 80円】

- 第1号『教育と平和』（緒方貞子氏の講演他）
- 第2号『国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ』
- 第3号『ライフワールド・ウォッチセンター』
- 第4号『生命科学フォーラム』
- 第5号『現代女性の恋愛・結婚・就労パズル』
- 第6号『「女性と科学」を科学する』
- 第7号『家族と犯罪—近しい者の憎悪はなぜ？』

※ご注文は、お茶の水学術事業会事務局まで

尾崎翠シンポジウム

「尾崎翠の世紀—第七官界への招待—」のご案内

ブックレット8号第三章で取り上げた「尾崎翠」のシンポジウムが開催されます。お茶大の菅聡子教授がパネルディスカッションの司会者を、第三章執筆の武内佳代氏が実行委員を担当しています。どうぞお出かけください。

◆会場：日本近代文学館 講堂（東京都目黒区駒場 4-3-55）

◆3月27日（金）午後【講演】川上未映子氏（作家）

【朗読】澤登翠氏（活動弁士）／ギター伴奏：湯浅ジョウイチ氏

◆3月28日（土）午前【映画】「こぼろぎ嬢」上映／浜野佐知監督のトーク
 午後【講演】池内紀氏（ドイツ文学者）

【パネルディスカッション】司会：菅聡子氏（お茶大教授） パネリスト：吉野朔美氏（漫画家）／高原英理氏（作家・評論家）／木村紅美氏（作家）

◆入場料：1日 500円（映画は別途 1000円・プログラム付き）

◆入場ご希望の方は、「尾崎翠シンポ」のホームページ（<http://osakimidori.info/>）からの予約申し込みが必要です（1月10日開始）。

〈主催〉「尾崎翠の世紀」実行委員会、鳥取県

〈協賛〉財団法人日本近代文学館、株式会社筑摩書房

〈実行委員〉委員長：浜野佐知（映画監督）

木村カナ（アヴァンポップ文学者）／近藤裕子（東京女子大学准教授）／

澤登翠（活動弁士）／鈴木恭子（現代文学「招待席」主宰）／

武内佳代（お茶の水女子大学大学院）／中野もえぎ（大学図書館員）／

松本侑壬子（十文字学園女子大学特任教授）／山崎邦紀（脚本家）



Good Day Good Bread

毎朝の食卓にしあわせをお届けしたい。良質の小麦を選び抜き、自然の風味を活かして、ていねいに、ていねいに焼き上げます。食卓でのいい出合いを大切に、気分のいい食事から一日を元気に弾ませたい。ヤマザキはそう願ってパンをお届けしています。



ヤマザキ www.yamazakipan.co.jp

AsahiKASEI
旭化成の住まい

はじめまして
ヘーベルハウス
です

“大切な家づくり”
窓口担当
お任せ下さい!

無料設計・無料土地診断
承ります

ロングライフ住宅。
ヘーベルハウス

<http://www.asahi-kasei.co.jp/ihinavi/ochanomizu/>
お茶の水学術事業会様専用ページからお問合せいただけます。

旭化成ホームズ株式会社 東京総合営業所 窓口担当:西野
〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル10F
電話03-3344-7791 FAX 03-3344-7793

編集後記

2008年秋、“お茶の水学術事業会をより親しみやすく充実したものに”との思いをこめて、ホームページをリニューアルしました。イベント情報、活動報告だけではなく、ご入会のお申し込み、ブックレットやゴールのご注文も受け付けています。是非ご覧ください。（<http://www.npo-ochanomizu.org>）
 （石原・植野・加納・河井・木村・斉藤・酒井・佐野・永長・中基・三浦・宮内）

広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は5月に、2500部発行予定です。会員の皆様ははじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月～金 10:00～16:00
 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地
東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分

都バス
大塚2丁目バス停すぐ